

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームかほく
(ユニット名)	よつば
所在地 (県・市町村名)	山形県西村山郡河北町
記入者名 (計画作成者)	菱沼恵智子
記入日	平成 20 年 7 月 19 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>よつば棟としてさくら福祉会の理念をもとに年度始めに棟の職員で協議し独自の目標をかかげている。皆で作らあげた身近な目標として大きく掲示し、その思いを貼り絵に込め利用者と共に制作している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>経営理念と棟の目標は意識し日々実践している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の開催、家族会、茶話会などを実施したときに、掲示物を見ていただきながらお話ししている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>畑の苗を持って来てくださったり、お花の苗を持って来てくださったり交流が出来る。ホームの利用者が近所を散歩したり、コンビニに買い物に行くこともあり、あたたかく見守って下さっている。</p>	<p>○</p> <p>近所の方が気軽に立ち寄ってもらえるような立地条件になっておらず検討中。2か月に一回運営推進会議と共に茶話会等を催しているので日常的な付き合いに発展するよう努めたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の催し物や行事には、積極的に参加している。町内会のレクリエーション大会、おさいとうなどに呼んでいただき地元の人々との交流を図っている。ホームでは茶話会、夏祭りを催し地元の人々に楽しんでいただいている。</p>	<p>○</p> <p>夏祭りが恒例となり、町の振興公社の協力を得ながら事業所の存在を広く町民の皆さんに伝えられるよう盛り上げていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年四月共用型認知症対応型通所介護としてデイサービスかほくを開設。ホームの利用者と一緒に地域の認知症の方が低料金で利用できるようになっている。又講演会、講習会を開き介護についての勉強会の場を提供し、地域の皆さんに参加していただいている。	○	運営推進会議などを通じて、事業所として地域で役立つことがあれば町内会の方々の要望をお聞きし、検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事故評価及び外部評価を実施する意義を理解している。評価を活かし、各担当者、職員と具体的に検討し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回開催している。状況報告や意見交換を行い提案や指摘事項については議事録を作成している。そして全職員に通達し、改善に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	共同型認知症対応型通所介護開設に向けて相談に乗っていただいたり、地域密着型サービス事業所としてこれからの指針、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	これからも、随時町と連絡を取り合い連携を強化して行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現、利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおり、制度について理解はしている。	○	資料を作成し、地域福祉権利擁護事業と成年後見制度について勉強会を開きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務が忙しく職員の気持ちにゆとりがない時等に、職員の言葉遣い、対応が乱雑になってしまうことがあるように感じます。職員一人一人の声を聞き、ミーティングを開催し業務の改善を図っていききたい。	○	高齢社虐待防止関連法についてきちんと勉強したい。合わせて利用者への接し方、コミュニケーションについても勉強していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4・理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、通所利用契約時には、重要事項説明し、疑問、不安な点がないよう十分にお話し理解していただくように努めている。解約の場合も十分にお話しをして納得いただいた上で転居先の決定まで、誠意ある対応を心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の心身の変化を敏感に察知し職員内で記録、申し送りで通達。利用者の率直な意見を言えるような環境作りに努めています。そして、その思いを職員で話し合い運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現在の暮らしぶりや、状況、預かり金台帳、領収書を「生活の状況のお知らせ」とし毎月居室担当者が記入し郵送している。。また面会時には状況報告(受診、心身の変化等)し職員と家族が共有できるよう努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には職員が現況を報告したり、話す機会を作るようにしている。家族総会、芋煮会、夏祭りなどに家族同士の交流をしてもらい、その際、意見、不満、苦情を伺うようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月一回の職員会議、棟会議を開き管理者、計画作成者が参加し運営者の意見の報告や問題を共有している。またシフトに入る事により、身近な問題点や職員の意見、現場の状況を把握し反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、状況に応じた対応ができるよう、通常シフトに入っておらず、利用者、職員の状態の変化に応じた対応ができるような体制作りをしている。パート職員を時間帯で置き、緊急時には居宅介護支援事業所の職員も対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定し馴染みの関係作りをしている。状況に応じて職員のユニット移動は必要であるとの考えもあるので、全職員が全利用者の状況を把握でき、誰でも適切に対応できるようにしている。居室担当者変更、ユニット移動時には利用者きちんと説明し了承してもらっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催されるさまざまな研修会に、職員の能力に応じて参加しスキルアップするよう指導している。また研修報告を記載し報告会をおこなっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に登録し定期的な研修会の参加、町の介護保険サービス事業所調整会議、ケアマネ交流会の参加、近隣のグループホームとの情報交換、各事業所のケアマネとの連絡、交流を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩所を設け、利用者から離れリフレッシュタイムを持つようにしている。職員の動きや表情にも気をつけ、ストレスや悩みを把握し改善するよう努めている。又、年2回の健康診断を実施し健康面に配慮し、有休を取れる体制を整えている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者が定期で本部に赴き状況報告をしている。困りごとあった時など相談にのっていただきいろいろな面で助言して下さる。また、理事長、統括所長が時々顔を見せてくださり、職員に声を掛けていかれる。	○ 資格取得による手当での支給、スキルアップのための研修会の参加など奨励している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みがあった時は本人と面談し、本人の思いや心身の状況を把握している。利用に至るまでには、ユニット職員へ通達し少しでも本人の不安、思いを受け止められるよう環境を整えたり、関係作りが出来るように勤めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が様々な思いを素直に話せる雰囲気作りを心がけている。不安なこと、求めていることを事業所としてどのように対応していくかを説明し、納得していただくよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、まず必要としている支援を見極め対応するように努めている。満床により、事業所で引き受けできないとしても、状況をよくお聞きし、必要に応じて他事業所の紹介や連絡調整を行なっている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居された方々は人生の先輩であるという事を念頭におきながら関わりをもつようにしている。日々の生活から教えてもらうことがたくさんあり、特に地域の風習など私たちがややもすれば、忘れていたことを大事にされていて勉強になります。そんな、季節の行事を大切にしながら一緒に生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、入居者の状況をこまめに報告し協力を依頼しています。職員と家族が一緒にご本人を支え、少しでも心地良くホームでの生活が持続できるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の思いと、本人の思いや状況を見極め、両者の思いが結びつくような働き掛けをし、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が尋ねて来られたり、自宅へ様子を見に行ったり、馴染みの理、美容院や医院への付き添い等、関係が途切れないように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、一人一人の性格を考え、関わりがうまくいくように努めている。皆さんで過ごす時には、職員が間に入り、入居者同士が楽しく過ごせるように配慮している。	○	それでもトラブルに発展した場合は両社の話をよく聞き、サービス担当者会議を開き、検討し対策を皆で話し合います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても、いつでも遊びに来ていただいたり、相談に乗ったりしています。また、他の事業所に移った方には面会に行き関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに耳を傾け話を聞いている。少しでも意向をかなえられるよう家族とも十分に話し合い、双方納得できるよう努めている。納得困難な場合は本人の思いを大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より生活歴や家系図を記入してもらい、その方のこれまでの暮らしぶりを職員が把握し、話のきっかけ作りや、その方を知るうえでの参考にさせてもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、一人一人の心身状態、有する力の現状を総合的に把握した上で無理強いせず、その方なりの一日を過ごしてもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からホームで生活するにあたり、思いや意向をお聞きし、総合的に勘案し計画している。又、居室担当者とも十分に検討しチームでのケアがうまくいくよう計画を立て実行している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース見直しの時期には、事前に担当者と話し合い、その後サービス担当者会議を開き見直しをしている。又変化が生じた場合でも、検討会を開き、家族を含め担当者、ケア関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランチェックを行い、職員一人一人のプランの意識付けをしている。ケア記録、看護記録を記入し、申し送りを徹底することにより、情報を共有しプランの見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	警察、消防には、何かあったときには、すぐ対処してもらえるよう通報訓練などを行い関係を密にしている。その他にも町内の公共施設に足を運び、ホームの存在を知ってもらったり、顔馴染みになったり、利用者のリフレッシュを図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーが担当を引き続きしてくださり、現況を報告し助言を頂いている。又、本人の意向や必要性に応じて他のサービス事業者を利用したり、より良い生活が送れるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前からのつながりとして地域包括センターの職員が来所し現況を把握している。また、定期的な運営推進会議に参加してもらい、情報交換や協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居決定の段階で、かかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを決め、受診や通院は本人と家族の希望に応じて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけについては、とてもむずかしいと日頃から思っているところ。慣れすぎて失礼な言い方になってしまったり、気持ちの入っていない職員の態度には、利用者のほうが敏感に感じている。	○ 職員の表情、声のトーン、言葉づかいに関し、常に注意をはらい悪い所あればその場で改善していきたい。記録にしても家族からの開示を求められた場合は、すぐ見せられるよう丁寧な書き方、わかりやすい言葉に気をつけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせた声かけをおこない、飲み物、食べ物、行きたい場所、今やりたい事を聞き入れ対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者のその日の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分でできる方には、その日の気分に合わせて着る服やおしゃれを楽しんでもらっている。自分でできない方についても意向を聞きながら支援している。理容、美容についても、本人の望む店や近所の馴染みの店に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夜のメニューは利用者と職員と一緒に考え決定している。嗜好、状態に合わせ柔軟に形態を変えたり、変更している。また調理、盛りつけ、片付けなどその日の能力を勘案し、日々の日課として一緒に作業している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の嗜好を理解しており、家族、医師と相談しながら可能な限り、お酒やたばこも可能にしている。外食などにも出掛け楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々排泄チェックを記録し、排泄時間やリズムを職員が把握し、トイレ誘導している。それでも、心身機能、意欲の低下により、リハビリパンツを使用する方については、不快な思い、皮膚疾患にならないよう、誘導をこまめにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や時間帯は、なるべく利用者の希望に添うようにしています。入浴を拒否される傾向の方に対しては、声掛けや対応の工夫を職員間で話し合い、連携して気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。利用者の心身の状態に合わせて休憩時間をとってもらうようにし、声掛け、誘導しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や、掃除・洗濯など家事全般や草取り、畑仕事を利用者が、自分の能力に合わせさせてくれている。声掛け、見守りしながら、無理なく楽しみながら出来るように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの「預かり」金は、ホームで責任を持って収支管理しています。家族の了解のもと、利用者の心身の状態や能力に応じて、個人で所持金を自由に使えるようになっており、好きな物を買ったり、面会に来た孫さんに小使いをあげたりしている。	○	自分で管理できなくなった方にかんしては、職員と家族の判断の元預かっており、必要な物品を購入し、家族に報告している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や山菜採り、水汲みなど季節に応じた外出、利用者の状態に合わせて外食や買い物、散歩など楽しみ気分転換、心の活性化をはかっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば、かなえられるよう計ります。個別対応が難しい場合は家族、親戚にお願いしたり、数人の利用者と一緒に出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由にしてもらっています。年賀状など時候のあいさつも職員が側に付き添いし、自筆で書いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	当ホームの面会者は多く、時間帯もこだわらず受け入れをしています。訪問者にたいしては、笑顔を忘れずあいさつし、ゆったりと利用者と一緒に時間を過ごしてもらえるように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行なっている。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解していないので、文章化し、職員全員で勉強していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中玄関や居室に鍵をかけることはしていない。鍵をかけず安全に過ごせるよう工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら所在を把握している。居室を訪ねる時にはノックをし声をかけてから入室するなどしている。夜間も定時で巡視し利用者の安全、急変に対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや針、カミソリなど危険な物品を所持している方は一部おります。その際も心身の状態や能力に応じて、よく話し合い双方納得した上で持っていただいています。また保管を事務所とする3場合は、家族とも相談し、自尊心を傷つけないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年間を通じて火災訓練や避難訓、緊急時の対応など定期的に訓練をおこなっており、日々の支援に役立っている。	○	事故を未然に防ぐ知識や取り組みを職員間でもっと勉強し、強化していかなければと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防署より講師をお願いし、救命救急訓練を指導してもらい、急変時や事故発生時に備えている。また、緊急時の連絡網に従い全職員が情報を共有できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中はもちろん、夜間を想定しての非難訓練を地域の消防署と連携して年4～5回実施しており、全職員が利用者に対して適切な避難誘導をおこなえるように努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の心身状態によって起こり得るリスクについて、家族に十分説明し了承を得ている。また、状態に合わせ家族や医療機関と相談しながら、その人らしい生活を守る環境作りに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、必ず健康チェックをしている。また顔色や食欲の有無など常に観察、記録し、職員間で情報を共有している。変化や異常の早期発見に努めている。異常があった場合は受診したり、看護ノートに記入し、看護師出勤時に相談し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に処方された服薬を担当が分薬している。服薬の情報提供をもとに、目的、副作用、用法、用量について熟知し職員に通達している。又症状の変化については、看護師に専門的に観察してもらい、適切な判断と、主治医との連携に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定期的な運動をしたり、食物繊維を摂ったり、日常生活を改善し、自然排便が促されるように取り組んでいる。慢性便秘の方に関しては、主治医から処方された整腸剤や下剤を指示に従い投薬し、腹部マッサージなど試みている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの講習会に参加し、口腔ケアの重要性を職員間で理解している。毎食後の歯みがき、入れ歯の洗浄、うがいを声かけし見守ったり、声かけしている。季節の行事、、、		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、申し送り等で職員全員が把握できるようにしています。	○	心身機能が低下し食べることが困難になったり、口腔状態が悪化した方については、家族、看護師と相談しながら、ご本人に合わせた食事内容にし、食べる環境も考慮しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、全職員が毎年インフルエンザ予防接種を受けています。またいろいろな感染症に関して情報収集を行い、看護師指導のもと勉強会を行い、食器類等の煮沸消毒や、利用者、職員の手洗い、うがいの徹底など予防対策に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員が役割分担をし、調理器具、台所、水周りの清潔衛生を保つよう月ごとに掃除日を決め実行しています。まな板、洗い桶、三角コーナーにいたっては毎晩漂白し清潔を心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かさを大切にした木造建築になっており、明るい雰囲気のある玄関になるように、観葉植物を置いたり、プランターを置いたりして季節感を演出しています。また建物前に畑があり、花を植えたり、野菜を育てています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や換気、加湿器など完備し入居社が心地良く過ごせるよう配慮しています。季節の行事に合わせ、掲示物を飾ったり、華美にならず毎日の生活に密着した空間になるよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂るところとは別にソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろいだりできるスペースを置いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては馴染みの物で、自宅と変わりなく過ごしてほしいことを、家族にも話しているが、使い慣れたテーブルや生活用品を持ち込んでいるのはほんの一部の方に限られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ換えや温度調節については、全職員が常に意識して換気や冷暖房調節をしている。温感の利用者によって個人差があるのでそれぞれ訴えがあった場合は誠意を持って説明し、衣服を調整するなど丁寧に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを随所に設置し、入居者の身体面の負担軽減を考慮している。また心身機能の低下傾向にある入居者などへは生活のすべてにおいてリハビリであることを意識して、安全確保しながら一緒に作業をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	心身の変化に応じて、一人ひとりの本来の力を引き出し、少しでも自分でできることを支援している。本人の不安材料をできるだけ取り除き、力を生かせる環境作りに心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花のプランターを置いたり、畑のスペースを確保したり、利用者が日常的にすすんで活動できるような環境作りをしている。また、玄関先にベンチを設置し、利用者が座って日光浴できるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四月から共用型認知症対応型通所介護として、デイサービスかほくを開設しました。共用型で一日3名様までがホームの皆さんと一緒に過ごされています。建物が開放感のある広い作りになっているので窓際にデイサービスのスペースを設け和やかな雰囲気、歌をうたったり、ゲームなどを楽しんでいます。お客様がいらっしゃる事で脳に刺激を与え、活性化され少しでも認知症の進行が抑えられればと思っています。職員一人ひとりが認知症のスペシャリストになれるよう勉強し、地域の皆さんに貢献していきます。